

江戸の河川工事

徳川家康は、1590年（天正8年）に江戸に入府しましたが、江戸城の増築建設と共に江戸城前の海（江戸湾）に埋め立て工事をしました。

江戸城の前の海は日比谷入江として城の南側までできておりました。日比谷入江の東側が前島と言われる半島（洲崎）で、その東が江戸湊と言われる入江で、さらに江戸湊の東に隅田川が流れ込みます。（別紙「家康江戸入府頃の江戸と河川付け替え工事」略図を参照下さい）

埋め立て工事と同時に江戸府内の河川の付け替え工事を行いました。

先ず江戸城の周辺の河川です。

江戸時代に江戸が再開発される以前（中世）に、江戸城の前の海に流れ込む主要な川は西から平川、石神井川と隅田川です。

平川も石神井川も隅田川に比べれば小さく中型の河川と言って良いでしょう。この2河川の流路を変えたのです。

（同じ「別紙家康 江戸入府頃の江戸と河川付け替え工事」略図を参照願います）

平川は日比谷入江に流れ込んでいましたが、この入江を埋め立てるため、最初は前島を横切って東側の江戸湾（江戸湊）にルートを変えました。そして更に平川は、江戸城北側の三崎橋から新設の神田川に水路変更し隅田川に流入させました。平川の名はなくなりました。後の神田川のことです。井之頭池（東京都武蔵野市）を源流とします。神田川は都心では水道橋、お茶の水を経て両国橋あたりで隅田川に流れ込みます。明治に入って三崎橋からの旧平川は新川の名で復活しました。現在、川名としての平川はないのですが、土地の名前としては現在も千代田区平河町として残っています。

次に石神井川です。

石神井川も隅田川に比べれば中型の河川です。源は小金井（東京都）そして石神井池（東京都練馬区）で江戸前島の東側を通過して、隅田川の西側の入江（江

戸湊)に流れ込んでいましたが、平川と同じく流路変更し、神田川に流し込みました。

現在の石神井川は江戸時代より上流の東京都北区堀船で隅田川に流れ込みます。

さて隅田川です。武蔵の国と下総国の境に流れ込む川で、この川は西の多摩川と共に古代より武蔵野国を流れる大河川です(別紙「荒川・入間川・隅田川」略図を参照ください。)

上流は入間川と言います。源は現在の秩父市の大持山(埼玉県のほぼ中央)です。最初は東に流れ、川越辺りで南東の方向に向かい江戸湾(東京湾)に注ぎ込みます。

入間川の下流(江戸)での名前が隅田川、上流での名前が入間川でした。

徳川幕府は工事をして入間川より北を流れる荒川をこの入間川(隅田川の上流)に注ぎ込みました。

この荒川と言う川は甲武信ヶ岳(こぶしがだけ)(山梨県、長野県、埼玉県の県境)を源として最初は東の埼玉県の秩父盆地へ向かい、そこから北へ向かい長瀬溪谷(ながとろ)から又東へ向かい久下(埼玉県熊谷辺り)から南東に向い途中利根川と合流して中川(隅田川と江戸川の間)となって江戸湾に流れていました。(入間川・隅田川に平行して、その北および東側を流れて隅田川と江戸川の間を通過して江戸湾へ)

1661年の徳川幕府は久下(埼玉県熊谷市)で荒川を南に向かう流路を作り、入間川に注ぎ込みました。荒川を二つに分けたのです。本流は入間川へですが、元の荒川ルートも存在します。元荒川と言います。

これで入間川(下流の名前が隅田川)の水量が増え、武蔵野国川越(埼玉県)への舟運が便利になりました。

この川越は徳川幕府が武蔵野台地北辺の江戸防衛上の拠点として重要視し、小江戸と称され繁栄しました。中世には川越氏、上杉氏、北条氏も拠点としました。川越藩は五代綱吉将軍の側用人柳沢吉保等譜代の大名が歴代藩主となっています。産業も米、まゆ、茶などの農産物や生糸、木綿織物、鋳物などの手工業が盛んです。江戸との流通は川越街道がありますが、多量に速く運べる水

運を強化したのです。

この外に、徳川幕府は隅田川の東側、今日の江東区に縦横に運河を作り舟運の便を図りました。(隅田川に平行して大横川、隅田川に直角に豎川、小名木川等)

又、江戸の府内ではありませんが、幕府は太平洋岸の常陸(茨城県)の那珂湊、上総(千葉県)洲崎(銚子辺り)からの江戸への舟運ために内航を整備しました。鬼怒川、常陸川、江戸川をつなげる工事をしたのです。

江戸府内の改造工事は江戸城の建築、堀の構築、運河の構築、神田や玉川上水道の整備、街道の整備なども行われましたが、ここでは主要な自然河川の整備にかかわる3河川の流路変更工事の話に止めました。

入間川・荒川・隅田川の後日談です。

江戸の初期になされた入間川(隅田川)と荒川の本流との合体は逆に水量が増えすぎ、下流の隅田川が洪水の被害を及ぼすようになりました。

この解決のために明治になって工事がなされたのです。隅田川の東側に並行して川を一本増設して隅田川(入間川・荒川の水)を二本に分流しました。これが1924年(大正3年)に完成した荒川放水路です。北区岩淵から東京湾まで24キロメートル、幅500メートルの人工河川です。現在は荒川と呼ばれています。隅田川の水量も減っても安定しました。

今、東京都と千葉県の間は西から、隅田川、荒川(中川は河口あたりで荒川に合流)、江戸川を越えて往来します。

以上

2015年6月4日

梅 一声

家康 江戸入府頃の江戸と河川付替え工事



- 当初の海岸線と河川
- その後の人工河川
- 平川 当初 A-A1-A2
- 付替え1 A-A1-A3-A4
(人工河川部分)
- 付替え2 A-B-C-D
(神田川=人工河川) A-A1は止める
- 石神井川 当初 C-C1
- 付替え C-D
- 小石川 当初 B-A1-A2
- 付替え B-C-D
- 神田川 平川上流と人口の河川A-B-C-D

荒川、入間川、隅田川



..... 工事でつなく